

新しい「国民が主人公の政治」めざして



「しんぶん赤旗」、民報読者、後援会員、支持者の皆さん、新年おめでとうございます。2009年、いよいよ総選挙の年が明けました。

雇用・暮らし・営業、福祉・医療、平和 どの問題でも自民党・公明党の政治への怒りが満ちあふれています。自民党政治の行きづまりは国民の実感です。民主党は、「早期解散と政権交代」を叫ぶばかりで、肝心の政治の中身をどう変えるかを語ることはできません。

日本共産党は衆議院で9議席、参議院で7議席ですが、雇用、医師不足、震災復興など国民のたたくいと連帯して現実政治を動かしてきました。この議席が増えれば政治は必ず変わります。

今度の総選挙、国民の苦難を解決するため、わが党は何としても前進しなければなりません。そして21世紀の早い時期に民主的政権を実現する第一歩の選挙にしたいと思えます。

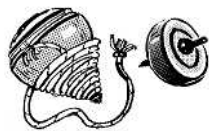
近畿ブロックではいま3議席。160万票以上で現有議席を絶対確保し、4議席以上をめざします。日本共産党にはいま、新しい注目と期待が集まっています。躍進のチャンスです。この可能性を何としても、ものにするため、私たちは全力を挙げます。ぜひお力をお貸しください。

最後になりましたが、皆様とご家族のご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とします。

党滋賀県書記長 川内 たかし

甲良民報

2009年1月1日 408号
発行責任：日本共産党甲良町支部
代表：西澤伸明 甲良町在土463
Tel.Fax38-4949



・ ・ 日本共産党の見解を紹介します ・ ・

日頃は私たちの活動に対するご理解・ご協力たまりご誠にありがとうございます。
2009年は総選挙の年、町政では町長選挙の

年です。
心と力合わせ
変革を
す漢字に「変」が選ばれました。共産党を伸ばし



て「ルールある経済社会を築き、アメリカ言いなりから抜け出す新しい政治」への「確かな一歩」を踏み出す変革の年にしたいと決意を新たにしています。

汚染米や後期高齢者医療制度などを通して、自民・公明政治の限界をこれほど多くの国民が実感した年はなかったように思えます。

同時に、毎日新聞の世論調査「自民が民主か」でも過半数が「どちらでもない」と回答。マスメディアが総がかりで仕掛けた「自民がダメなら民主で」の大キャンペーンも国民には受け入れられていません。

**働く人々と固く連帯して
日本共産党の真価**

激動する日本と世界の状況、日本の政党構図の中にあつて、いま、日本共産党が新しい注目を浴びています。

財界の総本山と呼ばれる日本経団連との初会談が12月18日に行われ、その席で「労働者の解雇撤回・中止」を志位委員長が申し入れたのです。労働者の「解雇撤回」のたたかいと固く連帯して、国会以外の場で、直接「財界の総本山」にたたくた役割は、現実政治を動かして国民の利益を守る真髓が発揮されたものです。「大企業は社会的責任を果たせ」の世論が、今、日本中を揺り

動かしていると心に響いた瞬間でした。

12月24日には世界のトヨタが日本共産党の申し入れを受けて、党本部で会談に応じたのです。私たちは国政調査権などで巨大企業に「乗り込む」ことはあっても、党本部での会談が実現するなどと言う出来事は今までなかったことなのです。

日本を代表する巨大企業の専務が党本部に向いて「大量解雇の引き金をひくな」と要求を受ける会談に同じざるを得ないところまで、労働者と連帯した党の国会内外でのたたかいが力を及ぼしている証明でもありました。

日本が遭遇している数々の問題はそれぞれに原因があり、解決の道筋は異なるでしょう。しかし、解決に導く基礎となるものは「大企業優遇をやめて国民を守るルールある経済社会を築く。アメリカ言いなりから抜け出す」という大方針です。

今、多くのみなさんが「人として大事にされ、一人一人が生き生きと暮らせ、夢ひらかせることができる新しい政治、新しい日本、住みよい地域」を切実に求めておられることをヒシヒシと感じます。

町民から不評 「町の重点事業」

昨年は「交流村」で開けて「交流村」で暮れる、と言っても過言ではありませんでした。私たちは元々「道の駅反対」の立場をとったことは一度もありません。むしろ、農産物生産の基礎力を高める施策を強化すること、町民同士が協力し合うことの妨げのもとになっている「同和行政」を最終すること、施設建設を先行しないこと、この3点をつらぬいてきました。

山崎町政が「意向調査を実施すれば、反対が多数になる」などの言い訳で実施しなかったことから、私たちが「道の駅・ふるさと交流村 あなたはどう思いますか」のアンケートを実施しました。

その結果は、圧倒多数が「施設建設

を先行すべきでない」と回答。町政も動かしつつあります。町は、簡易パークキング事業部分を12月議会の説明で「建設計画」から除外。自民党大上支部連絡協議会が取り組んだ「対県予算要望活動」には「呉竹センター改築」関係と河川改修はあるのに、「ふるさと交流村」に関する項目が見当たりません（12月25日発行の同協議会の新聞より）。町は、簡易パークキングを、県の事業主体で」と、国会議員を通して陳情までしていたのに……。

ハコモノ優先から くらし応援へ

「税金は、ふるさと交流村の施設建設よりも福祉や教育・医療に、くらし・子育て・農業応援に使って」との町民世論が一步ずつ

動かしていると思います。今年には町長選挙の年でもあります。どのような形になろうとも「公平で、町民こそ主人公の町政」は切実な課題です。

町民のくらしと営業を守り、諸課題の実現めざし、みなさんと力を合わせがんばる決意です。

国民・町民に対する責任として、国政でも、地域でも、国民が望む新しい政治を担える「地域に根を張った大きな日本共産党」をつくらねば、と痛感しています。そのために力をつくします。本年も皆様のご支援・ご援助・ご鞭撻よろしくお願い致します。

2009年1月1日

日本共産党 甲良町議会議員

西澤伸明

